

事業所名		プロッソムジュニア 東中野教室	支援プログラム（児童発達）	作成日	2025 年	3 月	14 日
法人（事業所）理念		えがおで咲かせる、ひとりひとりの「できるよろこび」、みんな違ってみんないい。				9時00分から18時00分	
支援方針		個別プログラムを用意し、「できた！」を連続観で見える化 集団療育に加えて、感覚統合・SST（ソーシャルスキルトレーニング）・知育・運動・ごっこ遊びなど、多様な個別プログラムを実施。お子様の成長を連続観で記録し、見える化します。 コミュニケーション力やしるを学ぶ機会を充実 他者との関わりを大切にしながら、会話力や社会的ルールを自然に身につけられる環境を作ります。 遊びを通して心を豊かに育む 音楽・体操・絵本などを活用し、楽しく情操教育を行います。 「サービス」ではなく「ホスピタリティ」で寄り添う 一人ひとりに心を込めて接し、お子様の気持ちに寄り添う関わりを大切にします。		送迎実施の有無		あいなし	
		ねらい		支援内容		具体的な活動や支援内容	
健康・生活		(a) 健康状態の維持・改善 (b) 生活のリズムや生活習慣の形成 (c) 基本的な生活スキルの獲得		(a) 健康状態の把握 健康な心と体を育て自ら健康で安全な生活を作り出すことを支援する。また、健康状態の常なるチェックと必要な対応を行う。その際、意思表示が困難であるお子さまの障害の特性及び発達の過程・特性等に配慮し、小さなサインから心身の異変に気づけるよう、ざめ細かな観察を行う。 (b) 健康状態の把握 睡眠、食事、排泄等の基本的な生活のリズムを身に付けられるよう支援する。また、健康な生活の基本となる食を習得力の育成に努めるとともに、楽しく食事ができるように、口腔内機能：感覚等に配慮しながら、咀嚼・嚥下、姿勢保持、自動共食に関する支援を行う。さらに、疾病の予防や安全への配慮を行う。 (c) リハビリテーションの実施 日常生活に必要となる動作の習得、それぞれの子どもに合った身体的、精神的、社会的訓練を行う。 (d) 基本的な生活スキルの獲得 身の回りを清潔にし、食事、排泄の世話、排泄等の生活に必要な基本的技能を獲得できるように支援する。 (e) 構造化等により生活環境を整える 生活の中で、さまざまな遊びを通して学習できるように環境を整える。また、障害の特性に配慮し、時間や空間を本人に分かりやすく構造化する。		来所時に体温測定を行い、健康状態を確認します。始まりの会では、健康状態や気持ちの表現を質問し、言葉やイラストを選んで自分の気持ちを表現できるように促します。困り感がある際は、気持ちの絵カードや言葉のモデルを示し、自分で表現できるような支援を行います。また、日常生活に必要なスキル（食事、排泄、前着など）の習得を支援し、教室の目録に記録し、生活リズムを整えるよう配慮します。（作業療法士が、姿勢や動作の改善に関するアドバイスをいたします。） 【共通】 持ち物の片づけを習慣化 衣類・お着せ・鞄・リュック・帽子を、ロッカーや指定の場所にしまっただけでなく、使用後に元の場所に直すよう声掛けを行い、片づけの習慣を身につけられるようサポートします。例えば、「使い終わった元の場所に返そうね」「次に使うときに困らないようにしよう！」などの声掛けをします。	
運動・感覚		(a) 姿勢と運動・動作の向上 (b) 姿勢と運動・動作の補助的手段の活用 (c) 保持する感覚の総合的な活用		(a) 姿勢と運動・動作の基本的技術の向上 日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び音得、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化を図る。 (b) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用 姿勢の保持や各種の運動・動作が困難な場合、姿勢保持装置など、様々な補助用具等の補助的手段を活用してこれらができるように支援する。 (c) 身体移動能力の向上 自力での身体移動や歩行、歩行車や車いすによる移動など、日常生活に必要な移動能力の向上のための支援を行う。 (d) 保持する感覚の活用 保持する感覚、聴覚、視覚等の感覚を十分に活用できるよう、遊び等を通して支援する。 (e) 感覚の識別及び代替手段の活用 保持する感覚器官を用いて状況を把握しやすくするよう眼鏡や補助器等の各種の補助機器を活用できるように支援する。 (f) 感覚の特性（感覚の過敏や鈍感）への対応 感覚や認知の特性（感覚の過敏や鈍感）を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の支援を行う。		身体などを通して、日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動能力の向上を目指すします。_x005Fサーキットなどの異なる運動や動作を組み合わせた活動を通して、筋力、持久力、柔軟性などの運動能力を高めます。注意して取り組んだり、集中して取り組めるような環境を整え、楽しく取り組めるよう支援を行います。 色や形の異なるブロックや絵本などの教材を用いて、視覚的に理解する力の向上を促します。 様々な楽器や音を使った活動、リズムに合わせて体を動かしたり、音を聞かされた活動を通して、楽しく活動の中で聞くことや聴いて理解する力を促進します。 【共通】 ①バランス感覚や体を鍛える運動 バランスストーン：不安定な石の上を渡る遊びを通して、足の踏ん張り方や体重移動のコントロールを学びます。並べ方を工夫し、高さや距離の違いに挑戦します。 トランプリッジ：ジャンプすることで、体幹を鍛えながら姿勢の保持力を向上させます。リズムよく跳んだり、指示に合わせた動きを取り入れることで、運動の楽しさを感じられるようになります。バランスボール：座ったり、うつ伏せになったりしながら、体幹を鍛え姿勢を整えながら体幹を鍛えます。ボールの上でバランスを取りながら手を叩いたり、キャッチボールをしながら行うことで、全身の協調運動を促します。 ②児童の運動に合わせたサポート 姿勢保持が苦手な児童には、足元にバランスクッションを設置し、座っているときに適度な刺激を与えながら、自然と背筋が伸びるよう促します。 長時間座るのが難しい場合は、座る時間を短縮し、途中で体を動かす時間を設けることで、集中力を持続しやすくします。 ボディイメージ（自分の体の位置や動きを把握する力）が苦手な児童には、衣服の前や肩、背中にシールを貼し、「どこに貼ったかな？」と探してもらうことで、感覚を刺激しながら体の部位を理解できるようにします。 指先運動（指先を使う運動） 指先運動（指先を使う運動） 折り紙・ちぎり紙・道迷い・ピース遊びなどの制作活動を通して、指先の細かな動きを鍛え、鉛筆や箸の持ち方につながる力を育てます。 パズルを使う練習では、線に沿って切る→曲線やジグザグに挑戦するなど、ステップアップしながら取り組めます。 縄跳び（体を大きく使う運動） しっぽ取り：縄についた「しっぽ」（布やリボン）を取り合う遊びを通して、瞬発力・方向転換・周囲の状況把握する力を養います。 ボール投げ：キャッチボールや向てを通過して、腕のコントロールや距離感の把握を確認します。最初は大きな的から始め、徐々に小さな的に挑戦することで、達成感を味わえるようになります。	
本人支援		(a) 認知の発達と行動の習得 (b) 空間・時間・数量等の概念形成の習得 (c) 対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得		(a) 感覚や認知の活用 視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分に活用して、必要な情報を収集して認知機能の発達を促す支援を行う。 (b) 知覚から行動への認知過程の発達 環境から情報を取得し、そこから必要なメッセージを選択し、行動につなげるという一連の認知過程の発達を支援する。 (c) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成 知覚の特性（色、形、音の識別）や、空間・時間等の概念の形成を図ることによって、それを認知や行動の手掛かりとして活用できるように支援する。 (d) 数量、大きさ、色等の理解 数量、形、大きさ、色、色の違い等の理解のための支援を行う。 (e) 認知の偏りへの対応 知覚の特性を踏まえ、自分にとって必要な情報を適切に処理できるように支援し、認知の偏り等の偏った特性に配慮する。また、こだわりや偏見等に対する支援を行う。 (f) 行動障害への予防及び対応 感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防、及び適切な行動への対応の支援を行う。		買い物や料理を通してお金の使い方や計算、時間の管理などを学ぶ機会を提供します。絵本や歌、パズル、時間を計るゲームを使い、楽しみながら空間・時間、数の概念を学び、深めます。お子さまが自ら問題を解決する機会を与え、教材や教具を用いて視覚的に理解しやすい支援を行います。 【共通】 感情のコントロールを練習する方法 感情を守る：例えば、おもちゃを使って「次は自分の番」というルールを作り、順番を守ることによって自分の感情をコントロールする力を養います。 物々交換する：道徳の授業、相手に「貸して」と言う場面を作り、順番を守って相手に物を貸してもらう経験を促します。待つことの重要性を学びます。 貸して返す：例えば、遊んでいるときに「貸して」と言ったら貸して返す経験を促します。その際、相手に返すときに、物を貸して返すことで、言葉で感情を伝える方法を学びます。 一対一の練習 「貸して」と言ったら貸して返す経験を促します。順番や順番を守ることによって、自分の感情をコントロールする力を養います。これにより、感情のコントロールや言葉での伝達に自信を持たせます。 少し待つ：順番が回ってくるのを待てる経験を促します。順番が回ってきたときに、待つことで順番が回ってくることを体験させます。その間、感情が高まらないように、落ち着いて待つ方法をサポートします。 キルとの言葉と感情のコントロール 先の見通しを立てて順番を待つスキルを定義させる：児童が順番待ちをするときに、「次は〇〇さんの番。その次は△△さんの番」と伝え、自分の順番を予測して待つ力を養います。 感情のコントロール方法を学ぶ：待つ期間に感情が高まった場合、「少し待ってはいれば自分の番が来るよ」とリマインドし、深呼吸や静かな場所を持つ方法など、感情を落ち着かせるスキルを練習します。	
言語コミュニケーション		(a) 言語の形成と活用 (b) 言語の受容及び発出 (c) コミュニケーションの基礎的能力の向上 (d) コミュニケーション手段の選択と活用		(a) 言語の形成と活用 具体的な事物や体験と言葉の意味を結びつける等により、体系的な言語の習得、自発的な発声を促す支援を行う。 (b) 受容言語と発出言語の支援 話し言葉や各種の文字、記号等を用いて、相手の意思を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し、発出する支援を行う。 (c) 人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得 個々に配慮された場面における人との相互作用を通して、共同注意の獲得等を含めたコミュニケーション能力の向上のための支援を行う。 (d) 指差し、身振り、サイン等の活用 指差し、身振り、サイン等を用いて、意図の理解と意思の伝達ができるよう支援する。 (e) 読み書き能力の向上のための支援 児童書のお子さまと、障害の特性に応じた読み書き能力の向上のための支援を行う。 (f) コミュニケーション手段の活用 各種の文字・記号、絵カード、機器等のコミュニケーション手段を適切に選択・活用し、環境の理解と意思の伝達が円滑にできるように支援する。		お子さまの興味や発達段階に合わせて、職員が意図を理解し応答しながら、遊びややりとりを通じて人への関心を広げます。表情やジェスチャー、視線などを使ったコミュニケーションを支援し、実際にものを見たり触れたりしながらことばの理解を深めます。歌やリズム、ゲームを通して楽しくことばを学べる環境を提供し、日常会話や活動で新しいことばや概念を学ぶ機会をつくれます。また、「貸して」「いっしょに遊ぼう」などのやりとりを練習する場を設け、職員が見本を示しながら支援します。 【児童発達支援】 発話を促す支援 お子さまが聴覚や視覚のある好きな活動やおもちゃを用意し、発声しやすくなる環境を整えます。 職員がモデルを示しながら、発話を促す支援を行います。 簡単な言葉発出の支援 集団活動を通して、他者に対して自分の意思を伝えることができるように、簡単なハンドサインや「貸して」「ちょうだい」「いれて」などの言葉発出をする環境を作ります。	
人間関係社会性		(a) 他者との関わり（人間関係）の形成 (b) 仲間づくりと集団への参加		(a) アタッチメント（愛着行動）の形成 人との関係を築き、身近な人と親密な関係を築き、その信頼関係を基盤として、周囲の人と安定した関係を形成するための支援を行う。 (b) 積極的行動の支援 遊び等を通して人の動きを模倣することにより、社会性や対人関係の習得を支援する。 (c) 感情認識遊びから感情理解の支援 感情認識を使った遊びや感情模倣を動かせる遊びから、見立て遊びやもも遊び、ごっこ遊び等の象徴遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。 (d) 一人遊びから協調遊びへの支援 周囲に子どもがいても無関心である一人遊びの状態から並行遊びを行い、大人が介入して行う連合的な遊び、役割分担したルールを守って遊ぶ協調遊びを通して、他者との関わりや協力の重要性を学び、社会的スキルを育てます。友だちとの遊びの場面では、職員が関わりながら同じ遊びに興味を持たせ、人との交流を楽しむようサポートします。ごっこ遊びや共同遊びを通して、社会性を育む機会を促進し、職員が遊びに参加しながら遊びや行動やことばのモデルを示します。 【児童発達支援】 グループでの協力やコミュニケーションを促す活動を通して、他者との関わりや協力の重要性を学び、社会的スキルを育てます。友だちとの遊びの場面では、職員が関わりながら同じ遊びに興味を持たせ、人との交流を楽しむようサポートします。ごっこ遊びや共同遊びを通して、社会性を育む機会を促進し、職員が遊びに参加しながら遊びや行動やことばのモデルを示します。 グループでの協力やコミュニケーションを促す活動を通して、他者との関わりや協力の重要性を学び、社会的スキルを育てます。友だちとの遊びの場面では、職員が関わりながら同じ遊びに興味を持たせ、人との交流を楽しむようサポートします。ごっこ遊びや共同遊びを通して、社会性を育む機会を促進し、職員が遊びに参加しながら遊びや行動やことばのモデルを示します。		事前に視覚的な手帳カードを使って丁寧に説明し、お子さまが安心して集団活動に参加できるように支援します。少人数での体験やゲームなどの活動を通して、社会性の向上を促します。またお子さまが自分や他人の感情を理解し、適切に表現できるよう、職員がグループでの協力やコミュニケーションを促す活動を通して、他者との関わりや協力の重要性を学び、社会的スキルを育てます。友だちとの遊びの場面では、職員が関わりながら同じ遊びに興味を持たせ、人との交流を楽しむようサポートします。ごっこ遊びや共同遊びを通して、社会性を育む機会を促進し、職員が遊びに参加しながら遊びや行動やことばのモデルを示します。	
家族支援		・個別療育や集団療育に行った活動の内容を連絡簿（お迎え時）や、写真付きでサービス提供記録にてお伝えします。 ・6ヶ月1回程度、モニタリングとは別で面談の機会を設け、保護者に共有していきます。 ・個別療育の観察の機会を作り、保護者に対して支援のポイントや関わり方のフィードバックを行います。		移行支援		・必要に応じて学校（園）に訪問し、児童との関わり方について情報共有、支援方針を計画します。 ・事業所での様子や他事業所や相談機関に対し、訪問、電話等で伝え、日々の様子や情報交換を行います。 ・学校（保育園・幼稚園）への送迎時、先生と学童（園）での様子や事業所との通るよう方の情報共有を行います。	
地域支援・地域連携		・関係機関で役割分担し、情報を共有を行います。 ・連携会議を定期的に開催し、情報収集・役割分担に関して協議します。 ・各関係機関の情報を基に、具体的な場面での関わり方や、困りごとに関する提案やポイントを共有します。 ・セルフプランの方には利用計画のコーディネートの依頼を申請する事業所の開催する会議に参加し、情報共有を行います。		職員の質の向上		プロッソムグループ本部にて下記研修実施 ・スタッフ研修 ・専門職員によるスキルアップ研修 ・虐待防止研修 ・虐待対応正誤研修 ・感染症対策研修 その他 他発着ミーティングにて他教室との情報・意見交換実施	
主な行事等		・季節の行事 ・近所施設や公園への外出活動					